

柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会 第2回会議 会議録

開催年月日	平成27年6月16日(火)	
開催場所	柏原市教育委員会教育委員会室	
開催時間	午後7時30分	
出席委員 (順不同)	島 会長 今水 委員 茨木 委員 浦上 委員 小川 委員	藤村 副会長 興梠 委員 辰巳 委員 平田 委員 水原 委員
事務局	尾野教育部長 蛇草教育監 中野次長兼教育総務課長	野間指導課長 松田学務課長 浅田学務課主査
傍聴者	なし	
議事案件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回審議会議事録の確認と承認 ・審議事項について <ul style="list-style-type: none"> ○学校規模・学校配置の適正化について検討する際の視点 	

【事務局】 ただ今より、第2回柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会を開催いたします。

はじめに、会長から挨拶をしていただきます。

【会長】 本日は第2回の柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会です。前回は全体議論でしたが、本日から中身の議論に入っていくことになろうかと思えます。前回同様に忌憚のないご意見をお願いいたします。

【事務局】 本日の、司会をさせていただきます、学務課の松田でございます。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、資料の確認と簡単な説明をさせていただきます。前回の審議会では、資料の訂正がありましたので、前回の資料の差替えに新しい資料を加えて、通し番号を付けたものを送付させていただきました。

資料の枚数が多くなりましたので、資料番号と名前を書いた資料一覧表もつけております。

また、ファイルをご用意しましたので、資料や次第の整理にご利用ください。

資料1 児童生徒数推移予測

- ・資料1につきましては、変更はございません。

資料2-① 通学区域略地図

- ・土砂災害警戒区域略地図を別にしました。その他は同じです。

資料2-② 土砂災害警戒区域略地図

- ・土砂災害警戒区域を示す三角形の向きがずれていたところの見直しを図ると共に、柏原市総合防災マップを基に、土砂災害警戒区域が土石流に由来するか急傾斜に由来するかにより色分けしました。

資料3 学校別施設（教室・特別教室・運動場等）調べ

- ・前回、数値の誤りでご指摘いただきました資料3の差替えです。一番右下の数値を訂正しております。

資料4 関係法令

- ・資料4につきましては、変更はございません。

資料5 土砂災害の種類等と避難所一覧

- ・資料5～が新たな資料でございます。柏原市総合防災マップから抜粋したものでございます。

資料6 各校区の最長通学道のり及び通学時間

- ・インターネットの地図を使って計り出したおよその時間です。

資料7 学級数の標準及び通学距離について

- ・通学距離は、小学校にあってはおおむね4キロメートル以内とありますが、柏原駅を中心に半径4キロメートルの円の中に、柏原市がほぼ入ります。

資料8 平成27年度 校区別年齢別人数

- ・前回ご質問のありました、「市全体として減少しているのに、堅下小校区の2歳児、堅下北小校区の1, 2歳児、（国分小学校校区の4歳児）が増加している理由」ですが、確実にこれといった理由は残念ながら、わかりませんでした。ただし、堅下小学校区内で6歳児以下の子どもを持つ世帯は既存のマンション等の集合住宅に住んでおられる方が多くおられました。

堅下北小学校区では、法善寺3丁目、4丁目の賃貸に居住する幼児が増えています。その多くは、2階、又は3階の既存の集

合住宅です。

以上から、集合住宅は何らかの要素になっているかもしれませんが、他地域にも集合住宅はございますので、その違いまでは判りませんでした。

資料 9 柏原市内各小・中学校の変遷

・小学校、中学校と行政区の区割りの変遷について記載しました。分離した学校名やその年度、分離前後の児童生徒数と学級数が把握できるように記載しております。

資料 10 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引

・今回の審議会のように、市町村が、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置について検討する際の参考となるように文部科学省が作成した手引きでございます。後程、この資料を参考に審議をお願いいたします。

資料 11 学校園棟別耐震性能一覧表

資料 12 小中一貫校の資料

資料 13 校区別就学率予測

・新たに 1 枚追加しました。それに伴い、資料一覧表も差し替えてください。

以上でございます。何かご質問ございませんでしょうか。

【委員】 ないです。

【事務局】 続きまして、議事に移りたいと思います。島会長、よろしく願いいたします。

【会長】 まずは、第 1 回審議会議事録の確認と承認をさせていただきます。

【事務局】 先日、郵送させていただきました議事録を机上にも置かせていただいております。ここで承認をいただいた議事録は、ホームページに掲載させていただきますのでご了承ください。何か、議事録について、問題はございましたか。

【委員】 問題なし。

【会長】 それでは、承認いたします。

【事務局】 ありがとうございます。

【会長】 次第に沿ってすすめます。審議事項は3つ予定されております。

- ①学校規模・学校配置の適正化について検討する際の視点
- ②望ましい学校規模の定義
- ③望ましい学校配置の定義

本日は、この3つ目の審議までできるかわかりませんが、今後の審議の土台をつくる内容となっていますので、少し時間をかけて、いろんな方面から議論をいただきながら進めたい。よろしいですか。

【委員】 はい。

【会長】 ありがとうございます。

まず、審議事項について事務局からの資料に記載されていますので、まずは①にかかわる部分についてのみ、事務局から説明していただいて、質疑応答した後、全体で議論したい。

【事務局】 前回、「①学校規模・学校配置の適正化について検討する際の視点」について、様々なご意見をいただきましたので、それを整理したものをレジメに記載させていただきました。

- 1) 学校の歴史的な変遷の把握と配慮
 - ・学校変遷の背景も考慮に入れ、検討を図る
- 2) 土砂災害の回避
 - ・避難所、防災拠点としての位置づけがあることから、土砂災害の危険性がない場所に設置すべき
 - ・環境の変化に応じた最新の基準を元に判断する
- 3) 教育活動が支障なくできる（学校運営、児童生徒の育成、教職員集団）
 - 学校運営
 - ・クラス替えができる学級数であるか
 - ・集団としての活動に制約があるか（部活動やグループ分け）
 - 児童生徒の育成
 - ・集団生活の中で培われる力（認め合い、協力し合い、切磋琢磨）
 - ・思考力、表現力、判断力、問題解決能力
 - ・社会性、規範意識

○教職員集団

- ・ バランスのとれた教職員集団であるか
- ・ 教職員の負担軽減が可能か
- ・ 教育活動のやり易さ（多様な指導方法がとれるか）

4) 通学条件の改善 [時間、距離、安全（交通事故、不審者）]

- ・ 児童生徒にストレスを感じさせない通学距離、時間
- ・ 踏切、信号、横断歩道、交通状況等の通学条件を十分把握する
- ・ 人目につかない場所が通学途中にないか
- ・ 自転車、スクールバス、鉄道の利用は可能か

5) 保護者、地域住民の意見、意向への配慮

- ・ 歴史ある母校を思う気持ちを大切にす
- ・ 説明会を複数回実施し、十分に理解を得る
- ・ 誰もが納得できる理由を考える

6) 地域コミュニティの核としての学校

- ・ 地域の交流の場である
- ・ 体育館や運動場の貸し出し状況や今後の割り当て方法
- ・ 子ども会分断の可能性はないか
- ・ 山間部の学校への配慮

委員の皆様には、この6つの視点で良いのかを確認していただきたいと思います。また、今回は時間があまりありませんでしたので、別の視点もございましたら、加えていただきたいと思います。よろしくご審議を願います。

【会 長】 事務局から説明がありましたが
今言って頂いた内容にご意見・質問等はございませんか。

私の方からいいですか。3)の中の、教職員集団のところにあるバランスのとれた教職員集団の「バランス」とは何か

【事 務 局】 男女のバランス・教職経験のバランス・年齢のバランスです。
少ない集団になると偏ってしまう場合がある。

【会 長】 男女のバランスはとれるんですか。

【事 務 局】 教員の異動の際には配慮しています。

【会 長】 小学校は女性の教員が多いですね。

【委員】 多いですけども、極端に偏らないようにヒアリングの際にも伝えている。

【会長】 中学校ではどうですか？

【委員】 今は女性が多くなってきた。

【会長】 半分超えていますか？

【委員】 本校の場合はまだ男性が多いが、もう少しで抜かれるほど女性が増えてきている。

【会長】 他にありませんか。

【委員】 先日、市議会議員さんが3人お見えになった。それぞれ来られたのは別々だったが、「市民不在で小中一貫校の検討をされている。区長会の代表は知っているのか。」とのことでした。

その時は知らなく、この審議会のメンバーに選ばれて知った。

13日の晩に、産業会館で、市民にその話を聞くための会合がもたれた。と聞いている。

「住民不在で進めていることはない、今から始まるところで、これから進めていって住民にも説明があるのでしょうか」と、言わせてもらったが、議会の進み具合、質問の内容はどうなっているかわかれば、お聞かせ願いたい。

【事務局】 この6月議会に、前回の会議の際に教育長から申し上げさせてもらった、柏原中学校・柏原小学校・柏原東小学校を一体化にした学校施設を柏原中学校の敷地中に設置をするにあたり、柏原市は財源的に非常に厳しいので、その財源をどういった形にするか、例えばPFI事業として成り立つのかどうかという事を調査する予算を提案させていただいている。それに関する質疑応答をさせてもらった。

【事務局】 区長さんが今おっしゃった通り、これから説明して行くという感覚で我々もいております。

【会長】 今議論している資料とは外れるが、審議会そのものの性格とか在り方ということについての、市民からの声にどう対処するかということで、この審議が終わったあとでも、もう一度取り上げて、全体の共通理解を図りたい。

資料①について、他にいかがでしょうか。

【委員】 地域コミュニティの核としての学校は、重要にしていかなければならない。グラウンドもなくなり、コミュニティの場がなくなるので、考慮してほしい。

【会長】 他に質問がなければ、中身の議論に入っていきたい。
議論の中で、内容についても深めていきたい。

まず、どのように進めていくか。

6つの柱（視点）で提案されているが、これは前回の議会で出た内容からまとめたものである。

現時点で他の視点があるようでしたら、おっしゃってください。
なければ、このまま1項目ごと見ていき、整理したい。

事務局何か、考え方に順番はありますか。

【事務局】 順不同です。

【会長】 思いついたらいつでも戻るなので、順番に1) から6) まで進めていきたいと思います。

では、1) 学校の歴史的な変遷の把握と配慮からいきたい。
補足意見・提案など、自由に提案してください。

【委員】 把握は資料からできたが、配慮はどうしていけばいいのか。
古い所を優先して考えるのか、防災の事を優先して考えるのか、考え方もいるのではないか。

【会長】 何を配慮するのか、優先順位は高いのか低いのか、変遷に関しても、遡るとねじれてしまってもいけない。

具体的にこの学校とこの学校を対象にしよう、という話があったときに、過去にはこういう事があったという意見も踏まえましょうと理解している。

その辺になると、熟知している皆さんからいろいろなご意見を、積極的に出していただきたい。

ないようでしたら、いつでも後戻りするので、次へ進んでよろしいですか。

【委員】 はい

- 【会 長】 2) 土砂災害の回避
災害は土砂災害だけですか。暴風・地震と何が起こるかわからない。
- 【事 務 局】 柏原は土砂災害が一番危険だと思います。
大和川の堤防が決壊することは考えられない。堤防は6メートル
60センチメートルあるので、これ以前にどこかで決壊するはずであ
る。柏原地区についてはないだろう。国分地区では、石川で可能性が
あるとしたら玉手中学校くらいです。
- 【会 長】 いかがですか、どうぞ。
- 【事 務 局】 防災に関しては、水平避難と垂直避難もあるので、エリアには入っ
ていたとしても、そういうことも材料として考えたい。
- 【会 長】 「土砂災害の危険性がない場所に設置するなど、防災の観点を重視
すべき」とすればよいのではないか。
- 【委 員】 柏原の校区編成は、主に2小1中となっているが、他の編成も議論
の対象となるのか。
例えば危険個所を避ける為に、中学校に2つの小学校をもってくる
以外に、1つの小学校に残りをもってくることもありえるか。
- 【事 務 局】 ありえます。
- 【委 員】 最新の基準を元に判断する「最新の基準」とは何か。
- 【事 務 局】 前回の話にもあった、国分東小学校のことで、最初は基準ではなか
ったが、気象状況が変わったので、そういうことを踏まえて、一番新
しい基準で判断するということです。
- 【委 員】 地震の災害にも、耐震基準の話も含めて、避難所や防災拠点という
ことの考えも必要になってくるのではないか。
- 【会 長】 差し迫って求められているのは、土砂災害であるのは間違いない。
「自然災害（土砂災害等）への備え」などとすればよいのでは。
さしせまった脅威にどう対応するかという視点が大事。
- 環境変化とは、何をさしているのか？

【事務局】 気象の変化としてゲリラ豪雨などが多くなっていることである。

【委員】 熱中症も問題になるのではないかと、最近は四季がなくなっている。

【会長】 ここは自然環境でよいのではないかと、
では、最新の基準とは何か？

パブリックコメントとして市民に出す際に、疑問をもたれないようにしておきたい。

耐震基準ですか？防災基準ですか？
最新の基準というのが出たのですか？

【事務局】 土砂災害等の防災です。
最新の基準が出たというわけではなく、今現在の基準ということです。

【会長】 次に進んでいいですか。

【委員】 はい。

【会長】 3) 教育活動が支障なくできる
先程大事な意見を出していただいたので、整理しておきますが、この中には柏原市の学校体制のマスタープランは載っていない。小中一貫教育の中では1小1中や2小1中が単位としていたと思うが、今回の適正規模・適正配置を考える際には、この視点はどのようにあつかうのか。

【事務局】 例えば、教育基本振興計画の中でうたっているのは、子どもたちが減ってきていることがあるので、小中一貫教育を進めている本市としては、一体型の校舎を考えていく。ということも入れていく。

【会長】 全体の大きなくくりとして話をすれば、中学校区を単位と教育単位を考えましょう。

それは、堅上などは1小1中だが、2小1中を基本と考えて、可能な所では施設一体型の1小1中も考えていく。

ということで整理してはどうか。

【委員】 はい。

【会長】 教育活動は、学校運営・児童生徒の育成・教職員集団の3つの柱で問題ないか。

【委員】 こどもの視点もいるのではないか？

【会長】 それは、児童生徒の育成の中では？
具体には、どんなことを考えておられますか。

【委員】 少ない人数よりは、多い人数の方がメリットがあると言われるが、本当にそうなのだろうか。

【会長】 その点は、次の項目の望ましい学校規模の定義に出てくるので、その観点はここで盛り込んでほしい。

市民的な観点で言うと勉強の事が書かれていない。基礎学力・学力向上の課題は入れておく必要があるのではないか。

【委員】 「教職員の負担軽減」と書かれると抵抗がある。

【会長】 OECDの国際調査の結果にもあるが、日本の教員の勤務時間は頭抜けて多い。
いっぱい抱え過ぎている。お父さん役もするし、警察役もするし。

【委員】 子育てもせなあかんしね。

【会長】 外国はそんなことはしない。勉強を教えたら帰らはります。日本の先生は夜遅くまで残っている。

【委員】 仕事なのに「負担」というのは気になる。

【会長】 ここに書かれているのは、2つの学校が1つになった際に、やることがいっぱい増えて、負担が多くなったという教員が増えては本末転倒である。ということで、2つの学校の文化が融合し、新しい文化ができるので、新しい学校としてスタートするのに配慮する必要がある。
なので、後ろ向きではなく前向きな表現で、教員の力量が発揮されて、良い学校づくりができる。と書いた方が良いのではないか。

【副会長】 今の学校は、地域なくしては考えられない。学習課程においても、安全面においても、学校は地域に助けてもらわなければならない。ということから地域連携の観点がいるのではないか。

6) は地域から見た学校で、今回述べているのは学校の教育活動から見た地域なので、3) に入る。

【会 長】 文科省が掲げているキーワードは、「地域と共にある学校」である。昔は、「地域に根差す学校」とか「地域と共に歩む学校」であった。最近では地域社会に力を頂いて、学校の担い手のひとつとして地域社会をとらえる。地域コミュニティと似ているようで違う。

【委 員】 福祉の場合は、学校の方へ世代間交流として、文化祭やお花のプレゼント交換などがある。地域福祉、福祉委員会として高齢者が学校に入っていく。

【会 長】 今までとは逆で、高齢者施設に子どもたちが行っていたところが、逆に高齢者が学校に行くようになっている。

【副 会 長】 学校の教育活動と地域連携、双方向で考えてもよい。

【委 員】 子ども会が、どんどんなくなってきた。昔は200～300人いたが、年々少なくなっている。子ども同士の交流がなくなっている。

【事 務 局】 どちらに入れるかを、事務局で考えさせてほしい。

【会 長】 今でている意見を盛り込んで、ベクトルがどっちを向いているか整理してほしい。

【委 員】 この3つの分け方に違和感を感じる。学校運営も教職員集団も最終的には児童生徒の育成に係る事なので、この3つは同じ並びでないような気がする。

むしろ、この中に市として小中一貫教育に取り組んできたことをどう活かしていくのかとか、学校が地域を活用した教育活動をどのようにしていくのか、などの教育活用の視点でまとめてはどうか。

【委 員】 ぼくらは、教育のことはわからないけど、小中一貫教育のメリットについても話をしてもらった方がよい。

【会 長】 柏原市が中心柱で取り組んでいる「小中一貫教育の推進」についても、この審議会の中でも共有できるように、資料等を出して欲しい。

【副 会 長】 小中一貫教育については、すでに議論されているんですよ。

【事務局】 はい。

【委員】 小中一貫とは堅上ですよ。

【事務局】 小中一貫は市内全中学校区でおこなっている。

【委員】 堅上は、連携型をやっている。

【委員】 すごく成績がよいという話を聞く。連携型で生徒の質も変わってきているのか。

【事務局】 成績の部分もありますが、次回にまとめて提示させていただきます。

【会長】 4) 通学条件の改善について話したい。
距離的には、4 kmの円にすっぽり覆われる。しかし距離だけではない、安全の観点でも考える必要がある。

【副会長】 柏原で自転車通学をしている所はあるのか。

【委員】 堅下南中学校の一部である。

【副会長】 事故とかはないのか。

【委員】 ない。

【会長】 要点は、交通・災害・不審者・通学上の身体的負担ですね。

それでは次に、一部先行するような形で話が出ていたが、5) と6) とを一括して、地域や地域住民・保護者を含めて、学校という観点でどうぞ。

5) はとっても大事ですね。しっかり踏まえて住民の皆さんに納得・ご理解をいただかないといけない。どこの市でも、ここが一番苦労されている所である。

【委員】 5) はとても大事なところだが、中身を見れば、他の項目の中にそれぞれ振り分けていくことができる。

- 【会 長】 教職員の代表に小規模校の実態や大規模校の実態話をしてもらおう。
あるいは、地域の人に来てもらって話をしてもらおう。
- 【事 務 局】 この審議会で話題にあがってくれば、そういう機会をもうけてもよいという話もしていた。
どのように振り分けるかをまた検討してまとめさせていただきます。
- 【会 長】 この審議会のメンバーは、保護者であり、地域住民であり、学校の校長であるので、その意見を反映していただくこともできるが、「地域の住民の意向が反映されていないのはいかがなものか」と言われてはいけませんので、観点として、項目を設ける必要はある。
- 【委 員】 5) 6) を合わせたものにしてはどうか。
- 【会 長】 重複している所を整理しながら、ひとつにまとめるようにする。
- 【委 員】 学校という所が、子どもにとってどうなのか、地域住民にとってどうなのかという視点も含めて考えて欲しい。
- 【会 長】 現状で避難場所になっている学校とそうでない学校はあるのか。
- 【事 務 局】 災害の種別によっては避難所になるところが違う。
柏原市の場合は、山側と平地に分けて考える事ができる。山側なら土砂災害。平地なら洪水。地震とかはどちらもかわらない。
- 【会 長】 ありがとうございます。6つの視点について活発にご意見いただきました。

全体を通じて、何か言い残したことや抜けている点がありますか。
- 【委 員】 単に2小を当時の1小に戻すにしても、交通状況なども変化しているので、道路の整備などの事情も考えないといけない。
- 【会 長】 小さくなったから元に戻すということではなく、交通状況・住宅状況・人の状況について考える。
- 【委 員】 未来の学校とは、何年後のビジョンなのか？
- 【事 務 局】 10年から20年くらい先。

今はおいとくけど10年後にはとか、そのまま減っていったら20年後にはどうなるのか、とか。

【委員】 しかし、柏中のことを考えると10年後の話ではない。

【事務局】 確かに、今の状況も考えていくが、先も見越して考える。

【委員】 この審議会の位置づけをはっきりしたい。
審議会で結論が出たときに、議会で考慮されるのか。

【委員】 今日の議会でも、この審議会の話題が出ていた。

【事務局】 この話をさせてもらってよいのか。

【会長】 ちょっと待って下さい、ご意見ありがとうございます。皆さんの興味が既に視点の所にならないことがわかりました。
視点の項目については閉じさせていただきます。
審議事項①については随分議論していただきましたので、事務局に次回に叩き台として修正案を出していただく。
審議事項②と③については次回。

今意見が出ているのは2つある。このことについて全体で共通理解して終わるといふ事によろしいか。

【事務局】 はい。

【委員】 ②③に「望ましい」という言葉があるが、誰にとって「望ましい」のか。

【事務局】 基本は子どもにとって望ましい。

【会長】 同じ様な言葉を使うのではなく、「望ましい」などは「適正」という言葉を使ってはどうか、適正な学校規模の定義とするとか。

2つの視点

○どれくらいの期間を想定しているのか。

- ・前回に、10年から20年を見据えてと提言している。
- ・人口動態から人口推計も考えてほしい。
- ・2040年には柏原市は消滅都市とされている問題も加味する。

○審議会の性格

- ・前回の会長の発言からもあるように、学校がなくなっていく状況をどうしていかなければならないのか。
- ・子どもが減っていく、学級はどうする、学校はどうするという課題をどうしていくのか。

【会 長】 疑問があるのは、審議会で議論して一定の方向付けができたときに、それはどの程度の実効性があるのか、どういう風になっていくのか。

【事 務 局】 今の時点では、教育委員会としての一定の方向性を示す指針に反映されていくベースになる。審議会の意見がすべてになるわけではない。住民の方の意見も聞く必要性がある。

【委 員】 適正規模・適正配置を考える際に、あくまでも教育として学校をどうしていくのかを審議会として結論を出したらよい。
それから、例えば統廃合をした際に、残った運動場や校舎などをどうしていくのかは、教育委員会から離れたまた別のところで考えていく問題で、この場は子どもを中心とした教育活動を中心とした適正規模・適正配置だけを検討してほしい。

【事 務 局】 今言っていたように、跡地利用などは市として判断する問題で、この審議会では、教育という観点で考えて欲しい。

【会 長】 適正規模・適正配置について、教育の論理を土台として考えるのがこの審議会の役割。
審議会は教育委員会から諮問を受けておりますので、私達の任務は諮問内容について考え方を整理して、答申を作る事です。
できた答申は教育委員会にお返しして、事務局が予算も含めて方針を立てて、それは議会に上がり、よければ可決する。
なので我々の任務は、いかに良い答申を仕上げるかとなる。
また、答申にいたるまでにはパブリックコメントとして、住民からの意見も盛り込む。ということよろしいか。

【委 員】 はい。

【会 長】 以上で、本日の議事項目については終了させて欲しいと思います。

【委 員】 物理的な問題は比較的着地点が決まるのかと思うが、心情的な問題を他市ではどのように解決してきたのか、具体的なパブリックコメントを聞かせていただきたい。

例えば、地元とどのような話し合いをしていったのか、など。

【会 長】 後は事務局にお願いします。ありがとうございました。

【事 務 局】 次回日程について 7月1日から9日の間で19時30分からです。決まり次第連絡させていただきます。

最後に副会長から、挨拶願います。

【副 会 長】 検討する際の視点として、有意義な議論ができてよかった。しかし、先を考えると大変だ。

次回からは、具体的な中身に入っていき、ひとつの議題においてもメリット・デメリットがそれぞれでてくる。

一般論ではなくて、具体的な柏原の小中学校の状況を考えながら、資料を用意しながら考える必要がある。

ありがとうございました。

【事 務 局】 ご苦勞様でした。これをもちまして、柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会 第2回会議を閉会いたします。